Jitāri と Śāntideva と Prabhākarakīrti

白 崎 顯 成

(1)

Jitāri の密教の著作には次のものがある。

- 1) *Aparimitāyurjñānavidhi* P. No. 3524. D. No. 2700.
- 2) *Aparimitāyuhstotra* P. No. 3522. D. No. 2698.
- 3) *Āryāparimitāyurjñānasādhana* P. No. 3523. D. No. 2699.
- 4) *Āryāvalokiteśvaracintāmaṇicakravartisādhana* D. No. 2849.
Āryalokeśvaracintāmaṇicakravartisādhana P. No. 3670.
- 5) *Caṇḍamahāroṣaṇasādhana* P. No. 3887. D. No. 3063.
- 6) *Caturmudrāsādhana* P. No. 4690.
- 7) *Nāthākṣobhyasādhana* P. No. 3481. D. No. 2657.
- 8) *Pañcarakṣāsādhana*
 - (1) *Pratisarāsādhana* P. No. 3940, 4074, 4197, 4405.
(SM. 194) D. No. 3119, 3251, 3376, 3583.
 - (2) *Āryamahāmāyūrisādhana* P. No. 3941, 4075, 4199, 4408.
(SM. 197) D. No. 3120, 3252, 3378, 3586.
 - (3) *Mahāsahasrapramardanīsādhana* P. No. 3942, 4076, 4200, 4409.
(SM. 198) D. No. 3121, 3253, 3379, 3587.
 - (4) *Āryamahāmantrānudhāraṇīsādhana* P. No. 3943, 4077, 4201, 4410.
(SM. 199) D. No. 3122, 3254, 3380, 3588.
 - (5) *Mahāsītavatisādhana* P. No. 3944, 4078, 4202, 4411.
(SM. 200) D. No. 3123, 3255, 3381, 3589.
- 9) *Pañcarakṣārcanavidhi*¹⁾ P. No. 3949. D. No. 3128.
- 10) *Maṇḍalavidhi* P. No. 4582, 5440. D. No. 3763, 4527.
- 11) *Māyājālakramāryāvalokiteśvarasādhana* P. No. 4220. D. No. 3399.
Māyājālakramāvalokiteśvarasādhana P. No. 4253. D. No. 3432.
Āryāvalokiteśvarasādhana P. No. 3988. D. No. 3167.
- 12) *Mahāpratisarācakralekhanavidhi* P. No. 3948. D. No. 3127.

(81) Jitāri と Śāntideva と Prabhākarakīrti (白 崎)

- 13) *Vajrasṛṅghalāsādhana* P. No. 4062, 4208, 4419, 4486.
D. No. 3241, 3387, 3597, 3663.
- 14) *Srīcatuḥpīṭhatattvacatuṣka* P. No. 2492.
Gdan bshihi de kho na ŋid bshi pa D. No. 1620.
- 15) *Śrīdaśakrodhavidyāvidhi* P. No. 2395. D. No. 1273.
- 16) *Hevajrābhīṣekaniścaya* P. No. 2394. D. No. 1272.

この内、5 番目の *C(aṅḍa) M(ahāroṣaṇa) S(adhana)* と同名の *Sādhana* は、西蔵大蔵経北京版で九本、デルゲ版では七本存する²⁾。Sanskrit Text は、B. Bhattacharya 校訂の *Sadhanamāla* に四本含まれている³⁾。Sanskrit Text のうち、No. 85 だけ著者 Prabhākarakīrti の名前があげられている。この Prabhākarakīrti の *CMS* の韻文の部分と Jitāri の *CMS* は完全に対応する⁴⁾。

ところで、西蔵大蔵経にはこれとは別の Prabhākarakīrti の *CMS* が伝へられている⁵⁾。これは *Sadhanamāla* の著者名を欠く No. 88 と一致する。この *CMS* は、No. 85 のものと相異なる。

Sādhana において、同一人が同じ対象に関して、2 つのものを著作するのは奇妙なことである。じつは、*Sadhanamāla* No. 85 の *CMS* は、Jitāri のそれに対する註釈的意味をもつものといえる。というのは、これは韻文と散文のまじり合つたものであるが、前述した如く、韻文のすべては Jitāri の引用である。この韻文を註釈する形で散文がはさみ込まれている。

衆知の如く、インド密教においては、Guru の地位は弟子にとつて絶対的なものであり、多くの儀軌や成就法は、Guru から弟子への秘伝の形をとるから、Prabhākarakīrti が Jitāri の韻文を引用するという事実は、彼が Jitāri の弟子である証拠と考えていいと思われる。

また、年代的には Sanskrit 写本の奥書から Prabhākarakīrti の時代は 1100 年と考えられるから、Jitāri の時代と一致する⁶⁾。

つぎに、8 番目の *Pañcarakṣāsādhana* の内、著者名が伝わっているのは、(5)のみであるが⁷⁾、*Pañcarakṣātantra* は Sanskrit 写本で見ると限り五者がまとめられて一つの写本を構成していることが多い点と、*Sādhana* に関しても常にこの五者がワンセットとしてまとめられている点を考え合わせれば、最後の (5) のみ Jitāri の名前をあげたものと考えられる。

さらにこのことは、ツオンカパの『ガリム』やケートブゼーの『タントラ類総論』によつても追証される。

ところでこれの Sanskrit Text は *Sādhnamālā* No. 194~200 に著者名を欠いて存在するが、Tibet 文と一致するから、Jitāri のものといえる。

つぎに、11 番目の *Māyājālakramāvalokiteśvarasādhana*⁸⁾ と、13 番目の *Vajraśrīṅghalāsādhana* は *Sādhnamālā* No. 40 と No. 207 に一致する。いずれも著者名を欠いているが、Jitāri のものといえる。

(2)

Jitāri の *B(odhicitta) U(tpādasamādāna) V(idhi)*⁹⁾ は、非常に密教的色彩が濃厚である儀軌にかかわらず、西藏大藏経では中観部に分類されている。

この *BUV* は、実は、以下の如く全体の 3 分の 1 以上にわたつて Śāntideva の *B(odhi) C(arya) A(vatāra)* の引用によつて埋まつている。この点に *BUV* が中観部に分類される理由が存すると考えられる。

<i>BUV.</i> P. 380b4-5.	<i>BCA.</i> 2-22.
<i>BUV.</i> P. 380b5-6.	<i>BCA.</i> 2-24.
<i>BUV.</i> P. 380b6-7.	<i>BCA.</i> 2-8.
<i>BUV.</i> P. 380b8.	<i>BCA.</i> 2-28.
<i>BUV.</i> P. 380b8-381a1.	<i>BCA.</i> 2-29.
<i>BUV.</i> P. 381a1-2.	<i>BCA.</i> 2-65.
<i>BUV.</i> P. 381a3.	<i>BCA.</i> 3-5a, 5d.
<i>BUV.</i> P. 381a6-7.	<i>BCA.</i> 2-26.
<i>BUV.</i> P. 381a7-8.	<i>BCA.</i> 3-10.
<i>BUV.</i> P. 381a8-b1.	<i>BCA.</i> 3-20.
<i>BUV.</i> P. 381b1-2.	<i>BCA.</i> 3-21.
<i>BUV.</i> P. 381b3.	<i>BCA.</i> 3-22.
<i>BUV.</i> P. 381b4.	<i>BCA.</i> 3-23.
<i>BUV.</i> P. 381b5-6.	<i>BCA.</i> 3-22.
<i>BUV.</i> P. 381b6-7.	<i>BCA.</i> 3-23.
<i>BUV.</i> P. 381b8-382a1.	<i>BCA.</i> 3-25.
<i>BUV.</i> P. 382a1-2.	<i>BCA.</i> 3-26.
<i>BUV.</i> P. 383a7-8.	<i>BCA.</i> 10-54.
<i>BUV.</i> P. 383b8.	<i>BCA.</i> 10-55.

ところでこの *BUV* は、後代チベット仏教では重要視せられたようで、ツォンカバの『ラムリム』¹⁰⁾ と『菩提正道』¹¹⁾ にしばしば引用されたり、言及されたりし

ている。

引用されているのは、

BUV. P. 380a6-7. *Lam rim chen mo.* P. 168b4-5.

BUV. P. 382a4-6. *Byaṅ chub gshuñ lam.* P. 24a1-3.

であり、言及されているのは、*Byaṅ chub gshuñ lam* に数ヶ所ある¹²⁾。

つぎに、Jitāri と Śāntideva は、同じ中観派に属しながらも、学統が異なると考えられるが、それにもかかわらず BUV 以外にも、明らかに Śāntideva の影響を受けたと考えられるものに *Bodhyāpattideśanāvṛttibodhisattvaśikṣākrama* がある。

以上の点から、Jitāri は Śāntideva から多くの影響を受けたといえよう。

(3)

最後に Jitāri の密教の著作が後代に与へた影響について述べる。

まず、Prabhākarakīrti に与へた影響は、前述の如くである。

つぎに、Jitāri の密教の著作は、ツオンカパの『ガリム』やケートブゼーの『タントラ類総論』に引用されている¹³⁾。

Pañcarakṣāsādhana は、ツオンカパとケートブゼーによつて引用されている¹⁴⁾。これ以外にケートブゼーは、現在盛んに行なわれている所作タントラの灌頂の一つとして、『無量寿九尊法』をあげている¹⁵⁾。これは Jitāri の密教の著作 1) *Aparimitayurjñānavidhi* に相当する。また、如来部の母に属するタントラの内、五守護ダラニに関して、

- 1) 『ダラニの儀軌』
- 2) 『大随求明の成就法とその守護輪を画く方法』
- 3) 『五守護成就法』
- 4) 『石女が子を生む方法』

をあげている。

1) は、*Pañcarakṣārcanavidhi* に相当し、2) は *Mahāpratisarācakralekhanavidhi* に相当する。3) は前述した如くである。4) は A. Wayman に従へば、『九曜供養の儀軌』があてられているが北京版のコロホンに従へば、著者は Hamṣa となつており、少し無理がある¹⁶⁾。*Pañcarakṣātantra* のうち、*Mahāsāhasrapramardanī* において¹⁷⁾、石女の原因は、十五の鬼霊が胎児を食べたり、生命あるものたちの種子を消滅さすからであると述べられている。そしてその対治法も述べられているから¹⁸⁾、これは *Pañcarakṣāsādhana* のうちの *Mahasrapramar-*

danīśādhana に相当すると考えたい。

以上の点を考慮するならば、Jitāri は哲学学派としては中観派に属するとはいえ、宗教的立場としては、その密教の著作から考えて、母タントラ系に属するものと云へよう。

-
- 1) 北京版・デルゲ版とも著作名を欠くが、北京版の奥書に、「これは Jitāri の説に従って著述されたものである」とあるから Jitāri の著作と考えてよい。
 - 2) P. No. 3886, 4085, 4086, 4179, 4301, 4302, 4303, 4894, 5111. D. No. 3062, 3262, 3263, 3358, 3479, 3480, 3481.
 - 3) *Sādhana-mālā*, ed. B. Bhattacharya, I-II. *Gaekwad's Oriental Series*. 26 & 41, Baroda. 1925 & 1928, No. 85~88.
 - 4) Prabhākarakīrti の *CMS (Sādhana-mālā No. 85)* は、Tibet 文では三本伝へられているが、それぞれタイトルが異なっている。① *CMS*, P. No. 4085, D. No. 3263. ② *Acalasādhana*, P. No. 4178, D. No. 3357. ③ *Caṅḍamahāroṣaṇasādhana sakalpa*, P. No. 4300, D. No. 3478.
 - 5) *CMS*, P. No. 3886, 4303. D. No. 3062, 3481.
 - 6) Cf. *Sādhana-mālā*, II, Introduction, p. cix.
 - 7) (*Mahā*)*śivavaiśādhana*, P. No. 3944. D. No. 3123. のみで、他の P. No. 4078, 4202, 4411. D. No. 3255, 3381, 3589 は著者名を欠いている。
 - 8) このうち、著者名が伝わっているのは、D. No. 3399 のみである。
 - 9) *Bodhicittotpādasamādanavidhi* P. No. 5363, 5406. D. No. 3968, 4493.
 - 10) Tsoñ kha pa, *Lam rim chen mo*, P. No. 6001.
 - 11) Tsoñ kha pa, *Byaṅ chub gshuñ lam*, P. No. 6145.
 - 12) P. 28b7-8, 30b7-31a2,
 - 13) *Mkhas Grub Rje's Fundamentals of the Buddhist Tantras*, translated from the tibetan by F. D. Lessing and A. Wayman, Mouton, 1968; *Introduction to the Buddhist Tantric Systems*, translated from Mkhas Grub Rje's Rgyud sde spyiḥi rnam par gźag pa rgyas par brjod, with Original Text and Annotation, F. D. Lessing and A. Wayman, Delhi, 1978.
 - 14) Tsoñ kha pa, *Siags rim chen po*, P. No. 6210, P. 39b; 高田仁覚『インドチベット真言密教の研究』p. 236; Mkhas Grub Rje による引用は、F. D. Lessing and A. Wayman, op. cit., p. 112~114; 高田仁覚, op. cit., p. 202.
 - 15) F. D. Lessing and A. Wayman, op. cit., p. 144. 高田仁覚, op. cit., p. 257.
 - 16) F. D. Lessing and A. Wayman, op. cit., p. 167.
 - 17) *Mahāsahasrapramardani* (Pañcarakṣā I), hrsg von Y. IWAMOTO. Kyoto 1937. (Beiträge zur Indologie Heft 1).
 - 18) 岩本裕『密教経典』読売新聞社, 所収、『守護大千国土経』p. 335~340 参照。

(関西大学講師)